

大雪山国立公園

山 層 雲 峡 ビ ジ タ ー セ ン タ ー



大雪山系黒岳九合目・マネキ岩下沢筋のウラジロナナカマドの紅葉



黒岳石室周辺

雲ノ平周辺

お鉢平周辺

赤石川方面

《大雪山系：黒岳周辺の紅葉～9月》今年の紅葉は8月下旬から色付きはじめ、例年並みの9月中旬に見頃を迎えました。紅葉当初は、定説を覆し標高の低い場所から色付き始め、徐々に山頂に向かって紅葉していくという過去に例のない色付き過程となりました。原因は色々と考えられますが、雨量や日照時間・気温・風等々も関係してきますが、標高の高い場所では気温は下がってはいるものの、日中の気温が上がらず「寒暖の差」がつかなかったことも挙げられます。いわゆる「寒寒」状態。標高の低い場所は、気温はさほど下がってはいませんが、日中の気温が上がったため「寒暖の差」が出て先に色が付いたと推測されます。但し、9月初旬にはそれらも解消され、昨年同様に深みのある濃い赤色のウラジロナナカマドが出た年となりました。



《 エゾライチョウ ～ 8月 》

体長約 35 cmで、ずんぐりとした体型です。鳴き声は甲高く「ピーッ ピッ ピッ ピッ」。主に、広葉樹の葉や草、種子や果実、昆虫類も食します。冬は、広葉樹の冬芽や花穂を採食します。層雲峡周辺の林道で見つけましたが、今年は黒岳六合目周辺で繁殖があり、雛 8羽を引き連れ登山道上を歩く家族群の姿が見られました。本州の高山帯に生息するライチョウとは属が異なり、羽の色は変化しません。



《 エゾシマリス ～ 8月 》

数分間「追いかっこ」をした後、写真のようにゆっくりと「ふれあう」仕草を始めました。仔リスですが、巣穴から初めて出てきてから約2週間で「自立」しますが、近くにはこの2匹のみでしたので明らかに自立したリスでしょう。じゃれ合っているのか、繁殖行動の一種なのか……。数分後、また追いかっこをしながら森の中に消えていきました。写真は撮れませんでしたでしたが、この仕草の前に何と「キス」まで……。



《 大丈夫? ～ 8月 》

エゾシマリスが「ダイセツトリカブト」の茎と種子を採食していました。ご存知の通り、トリカブトには毒がありますが、特に「根」が猛毒ですが、全草にあります。以前はこのような光景は目にしませんでした……。他の動物に比べ、分解する酵素が強いようですが、しかし、種子はアルカロイドが強い為、決して身体には良くはないのですが、経過の観察ができないためその後の状況が気になります。また、近くには「エゾシカ」が葉を食した痕跡も見つけられました。

*** 黒岳周辺 消雪時期比較**

場所	2015消雪時期	2014消雪時期
黒岳七合目	7月5日	7月16日
黒岳八合目	7月5日	7月16日
黒岳九合目	6月16日	7月4日
石室周辺	6月10日	6月10日
石室～赤石川	7月16日	7月16日
北鎮岳分岐下	7月27日	8月25日

比較的暖かく推移した「4月期」の影響で、今年の大雪の雪どけは昨年比かなりの早さで消雪しました。特に、毎年難所であり遅くまで雪が付いている「北鎮岳分岐下」は、昨年比約1ヶ月も早くに消雪となりました。高山植物の開花の早まりを危惧しましたが、5月から7月にかけて気温が上がらない寒い日が続き、6月初旬には大雪山一帯に降雪があり、また、7月には断続的に「霜柱」が至る所で見られ、この不安定な天候の影響で少なからず「高山植物」の咲き方に影響が出ました。



《群生～8月(8/12)》 不安定な天候の影響で、今年の高山植物の開花やその後の状況が「弱く」推移しましたが、雪どけ部から開花した植物は悪天の影響を受けず、写真の通りの群生となりました。エゾツガザクラ・コエゾツガザクラ・アオノツガザクラ・エゾコザクラ、また局所的ではありましたがチングルマも群生となりました。

